



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年4月14日

上場会社名 株式会社 A B E J A 上場取引所 東
 コード番号 5574 URL <https://www.abejainc.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 C E O (氏名) 岡田 陽介
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 C F O (氏名) 英 一樹 TEL 03-6387-9222
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	2,351	30.0	384	32.6	389	33.3	336	37.6
2025年8月期中間期	1,807	26.9	289	43.4	292	44.6	244	43.4

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	33.94	32.24
2025年8月期中間期	26.15	23.62

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期中間期	5,553	4,888	88.0
2025年8月期	5,318	4,471	84.0

（参考）自己資本 2026年8月期中間期 4,886百万円 2025年8月期 4,469百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2026年8月期	-	0.00	-	-	-
2026年8月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年8月期の業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	25.5	600	34.6	614	35.8	540	20.5	54.43

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 業績予想の修正については、本日（2026年4月14日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 中間財務諸表及び主な注記(4) 中間財務諸表に関する注記事項(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期中間期	9,936,257株	2025年8月期	9,764,800株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	115株	2025年8月期	115株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年8月期中間期	9,906,220株	2025年8月期中間期	9,340,808株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手について)

当社は、2026年4月14日(火)に機関投資家及びアナリスト向けに説明会(ウェブ)を開催する予定です。なお、当日使用する決算説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社は「ゆたかな世界を、実装する」を企業理念に掲げ、顧客のAI活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しております。中核であるABEJA Platformは、顧客の業務及び現場において、データ、意思決定及びオペレーションを一体的に扱い、リアル空間のオペレーションの高度化を支える実装基盤であります。

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復の動きがみられます。一方で、今後の物価動向、米国の政策動向、中東情勢の影響や金融資本市場の変動等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の事業環境におきましては、企業の関心は生成AIの導入自体から、業務プロセスや現場での継続運用を通じて投資対効果につなげることへと移りつつあります。大規模言語モデル(LLM)等の利活用が拡大する中、AIエージェントの進展に伴い、AIが関与する業務範囲も広がっております。さらに、フィジカルAIへの注目の高まりを受け、AIの活用領域は産業現場やリアル空間へと拡大しております。加えて、少子高齢化に伴う構造的な人手不足を背景に、省力化・効率化や現場活用の高度化に対する需要も高まっております。

このような環境のもと、当社はABEJA Platformを通じて、必要な場面で人が関与する「人とAIの協調」を前提とした運用設計のもと、顧客のAI活用を実運用として成立させ、継続的な改善を支援してまいりました。

当中間会計期間においては、LLM関連需要の取り込みに加え、ABEJA Platformを通じた継続運用・利用拡大が進展し、売上高、営業利益ともに中間会計期間として過去最高となりました。売上総利益率は、戦略的案件や原価側のリソース増強の影響により前年同期比で低下したものの、想定範囲内で推移しております。また、販管費は概ねコントロールされた水準で推移し、利益成長に寄与いたしました。なお、当第2四半期会計期間の業績は、第1四半期会計期間比でやや落ち着いて見えるものの、案件進行タイミング等の影響によるものであり、当中間会計期間全体としては、計画に対して順調に進捗しております。

また、事業面では、エンタープライズ案件と公的プロジェクトを並行して推進する中で、フィジカルAI等の将来成長領域に向けた取り組みも進展いたしました。公的プロジェクト及び個別案件の両面で、基盤づくりや実社会での検証・評価に取り組んでおります。

この結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高2,351,178千円(前年同期比30.0%増)、営業利益384,605千円(前年同期比32.6%増)、経常利益389,600千円(前年同期比33.3%増)、中間純利益336,233千円(前年同期比37.6%増)となりました。

加えて、株式会社富士山マガジンサービスとは出版領域におけるAI活用に関する協業検討を、株式会社アンリアレイジとはクリエイティブ領域におけるAI活用に関する協業検討をそれぞれ開始するとともに、両社への出資を実施いたしました。

当社はエンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

なお、売上高については、「トランスフォーメーション領域」と「オペレーション領域」に分類しており、2025年8月期及び2026年8月期中間会計期間の実績は次のとおりとなります。

(単位：千円)

領域の名称	2026年8月期 中間会計期間(実績)		2025年8月期 (実績)	
		構成割合		構成割合
トランスフォーメーション領域	1,827,319	77.7%	2,746,630	76.6%
オペレーション領域	523,859	22.3%	838,779	23.4%
合計	2,351,178	100.0%	3,585,409	100.0%

トランスフォーメーション領域は、個別顧客のニーズに対応したABEJA Platformの導入支援とその周辺サービスを提供しており、仕組みづくり・構築フェーズに位置づけられます。なお、仕組みづくり・構築は段階的に進めていくため、多くの収入はフロー型(都度契約)となりますが、一方で長期間にわたる計画的なプロセスとなるため、継続顧客の割合は高くなっております。

- ・エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率(注)88.8%(2025年8月期)

(注)エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率は、既存顧客(前事業年度に売上が発生したエンタープライズ顧客)の当事業年度の売上高/エンタープライズ顧客の当事業年度の総売上高
オペレーション領域は、個別顧客のニーズに対応したABEJA Platform上で人とAIの協調による運用を行う運用フ

ューズに位置づけられます。このため、主な収入はストック型の継続収入となります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末の資産合計は、5,553,255千円となり、前事業年度末に比べ235,080千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が336,902千円減少した一方で、売上高増加に伴い売掛金及び契約資産が104,703千円増加したこと、戦略的アライアンスの推進および体制強化を目的とした出資に伴い投資有価証券が355,684千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末の負債合計は、664,763千円となり、前事業年度末に比べ181,674千円減少いたしました。これは主に流動負債のその他に含まれる契約負債が132,254千円減少したこと、流動負債のその他に含まれる未払消費税等が67,726千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、4,888,492千円となり、前事業年度末に比べ416,755千円増加いたしました。これは主に新株予約権行使等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ29,876千円増加したこと、中間純利益の計上により利益剰余金が336,233千円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べ336,902千円減少し、4,249,115千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、51,306千円となりました(前年同期は767,362千円の収入)。これは主に税引前中間純利益389,600千円の計上があった一方で、売上債権の増加額104,703千円、未収入金の増加額79,133千円、契約負債の減少額132,254千円、その他に含まれる未払消費税等の減少額67,726千円、法人税等の支払額53,650千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、332,686千円となりました(前年同期は9,090千円の支出)。これは有形固定資産の取得による支出8,179千円や戦略的アライアンスの推進および体制強化を目的とした出資に伴う投資有価証券の取得による支出324,351千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、47,089千円となりました(前年同期23,448千円の収入)。これは主に新株予約権の行使による株式の発行による収入47,089千円等によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当中間会計期間における業績動向を踏まえ、2025年10月15日の「2025年8月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました2026年8月期の通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2026年4月14日)公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当中間会計期間 (2026年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,586,017	4,249,115
売掛金及び契約資産	463,070	567,773
仕掛品	12,992	12,173
貯蔵品	2,404	1,580
未収入金	1,104	80,237
その他	39,694	82,709
貸倒引当金	△738	△738
流動資産合計	5,104,545	4,992,851
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	30,216	38,395
減価償却累計額	△13,344	△18,561
工具、器具及び備品(純額)	16,871	19,833
有形固定資産合計	16,871	19,833
無形固定資産		
ソフトウェア	14,490	12,495
無形固定資産合計	14,490	12,495
投資その他の資産		
投資有価証券	—	355,684
繰延税金資産	162,782	152,906
その他	19,484	19,484
投資その他の資産合計	182,266	528,075
固定資産合計	213,629	560,404
資産合計	5,318,174	5,553,255
負債の部		
流動負債		
買掛金	498	495
未払金	159,807	219,154
未払法人税等	74,069	74,485
賞与引当金	157,661	157,213
役員賞与引当金	51,479	12,866
その他	402,921	200,547
流動負債合計	846,438	664,763
負債合計	846,438	664,763
純資産の部		
株主資本		
資本金	895,936	925,812
資本剰余金	2,679,513	2,709,390
利益剰余金	894,213	1,230,447
自己株式	△272	△272
株主資本合計	4,469,391	4,865,377
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	21,457
評価・換算差額等合計	—	21,457
新株予約権	2,344	1,657
純資産合計	4,471,736	4,888,492
負債純資産合計	5,318,174	5,553,255

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	1,807,951	2,351,178
売上原価	687,058	992,802
売上総利益	1,120,892	1,358,376
販売費及び一般管理費	830,916	973,770
営業利益	289,976	384,605
営業外収益		
受取利息	1,439	4,665
受取手数料	1,063	638
その他	847	860
営業外収益合計	3,350	6,163
営業外費用		
支払利息	—	232
為替差損	590	366
株式交付費	368	570
その他	114	0
営業外費用合計	1,073	1,168
経常利益	292,253	389,600
税引前中間純利益	292,253	389,600
法人税等	47,959	53,366
中間純利益	244,294	336,233

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	292,253	389,600
減価償却費	5,334	7,212
株式報酬費用	—	950
賞与引当金の増減額(△は減少)	51,039	△447
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	20,256	△38,612
受取利息	△1,439	△4,665
支払利息	—	232
株式交付費	368	570
売上債権の増減額(△は増加)	△348,724	△104,703
仕掛品の増減額(△は増加)	△7,616	819
貯蔵品の増減額(△は増加)	△819	824
未収入金の増減額(△は増加)	631,751	△79,133
仕入債務の増減額(△は減少)	19	△3
未払金の増減額(△は減少)	56,723	59,347
契約負債の増減額(△は減少)	△21,368	△132,254
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	4,784	1,414
その他	72,061	△103,239
小計	754,624	△2,088
利息の受取額	1,439	4,665
利息の支払額	—	△232
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	11,299	△53,650
営業活動によるキャッシュ・フロー	767,362	△51,306
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,090	△8,179
投資有価証券の取得による支出	—	△324,351
その他	—	△155
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,090	△332,686
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	150,000
短期借入金の返済による支出	—	△150,000
自己株式の取得による支出	△149	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	23,598	47,089
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,448	47,089
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	781,720	△336,902
現金及び現金同等物の期首残高	2,868,910	4,586,017
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,650,630	4,249,115

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

当社は、エンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

当社は、エンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間会計期間に係るセグメント情報については、フィジカルAIを含む取り組みの進展等を踏まえ、デジタル領域に限定されない当社の提供価値をより適切に表すため、従来「デジタルプラットフォーム事業」としていた報告セグメントの名称を「エンタープライズプラットフォーム事業」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前中間会計期間のセグメント情報についても、変更後の名称で記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。